

令和7年度特別研究テーマ報告会

助成：前田記念工学振興財団

テーマ名「過去の地震被害からみる台湾の地震復興力の分析」



長岡技術科学大学大学院修士2年

安達和希

長岡技術科学大学大学院修士2年

西尾陽丸

長岡技術科学大学大学院修士2年

武藤夏歩

東京大学大学院修士2年

佐藤美乃梨

訪問国：台湾

日付	ルート
6月4日（1日目）	(行便) 台北
6月5日（2日目）	
6月6日（3日目）	台中
6月7日（4日目）	台中
6月8日（5日目）	台中，阿里山
6月9日（6日目）	阿里山，嘉義
6月10日（7日目）	嘉義，台南
6月11日（8日目）	嘉義，台北
6月12日（9日目）	台北（帰便）



国立台湾大学 @台北



実験室の見学



国立中興大学 @台中

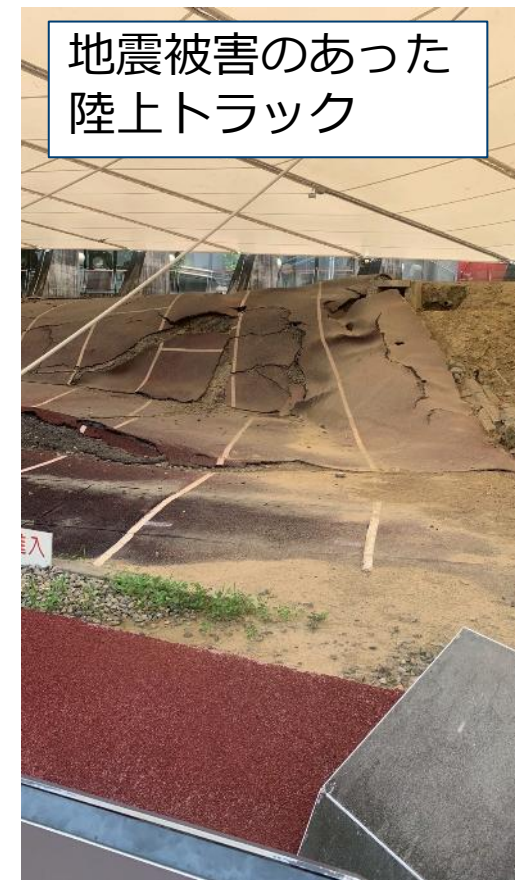
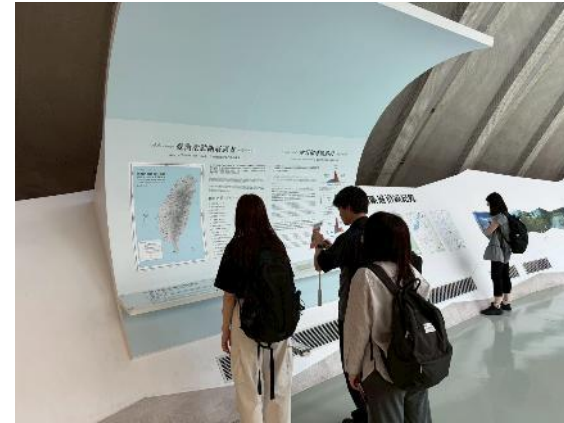
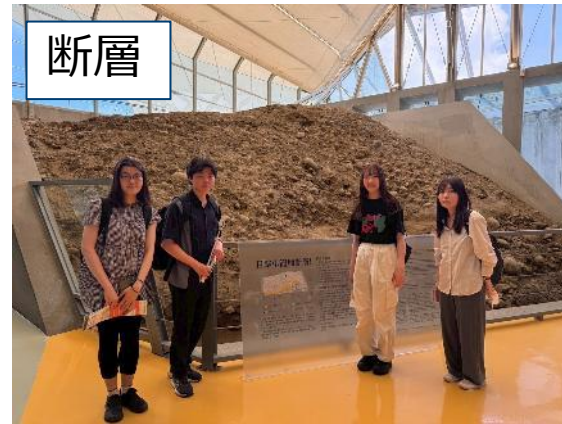


国立嘉義大学 @嘉義



921地震教育園區

- ・ 921地震教育園區は実際の被災した学校がそのまま保存されており、現実起きたことを彷彿とさせる
- ➡台湾の地震、自然災害への危機意識の高さを実感
- ・ 1999年9月21日午前1時47分、台湾中部でマグニチュード7.3の強烈な地震が発生したときの断層のずれ、校舎の倒壊、河床の隆起など全て保存されている
- ・ 5つの建物に分かれており、地震工学や防災について学ぶことができた



阿里山森林鉄道，中央気象署台湾南区気象センター

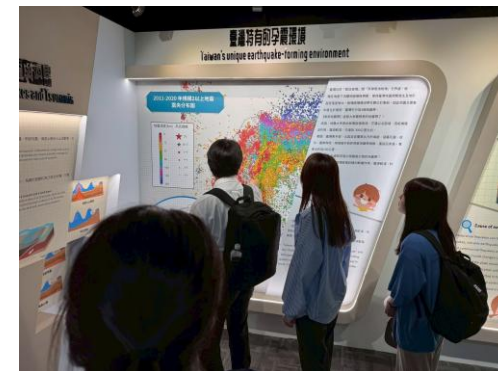
阿里山森林鉄道

- ・ 1899年，木材を運ぶ目的で日本人によって建設されたもの
- ・ 日の出を山頂で見た



中央気象署台湾南区気象センター

- ・ 台湾南部の地震および気象，その歴史などを学ぶことができる



八田與一紀念園區，烏山頭ダム

八田與一紀念園區

- ・嘉南大圳（台湾で最大規模の農水施設）の建造者，八田與一を記念して建てられた



烏山頭ダム

- ・日本統治時代の1930年（昭和5年）に水利技術者，八田與一によって計画設計された



台湾高速鉄道（新幹線）

- ・嘉義市から台北市へ戻るために乗った
- ・椅子が日本の新幹線より少し硬めに感じた
- ・JR西日本の車体が使用されていた



- ・石岡ダムは台風の影響，花蓮地域は地震の影響により訪問できなかった

震度2 台湾付近 20:00ごろ



震度	2
震源	台湾付近
規模	マグニチュード6
深さ	約30km
緯度経度	北緯23.4度 / 東経121.6度

この地震による津波の心配はありません。

日本でも報道されていた

何を感じ、何を得て、今後にどう活かしたいか

・安達

台湾も日本と同様に地震大国であり、防災意識の高さや震災の記憶を伝えようとする姿勢に刺激を受けた。初めての海外経験や現地での交流を通じて、言語や文化を越えた相互理解の大切さを実感し、視野が広がった。この経験から、将来は地盤や構造物の耐震設計に真摯に向き合う技術者でありたいという思いが強まった。

・西尾

台湾巡検を通じて、台湾も日本と同様に平地が少なく、山岳・森林が多い地形条件下では、地震動対策に加えて斜面災害対策が極めて重要であると実感した。台湾大学・嘉義大学の実験設備や地すべり現場、921地震教育園区の見学から、教育・研究・防災を現地と結び付ける姿勢を学び、今後は地盤・斜面の両面から防災・減災に貢献できる技術者を目指したい。

・武藤

台湾の北部から南部までを主に防災の観点から巡検することができ、非常に価値のある経験となった。また、被災当時の状況がそのまま保存された地震被害を見学し、構造物の維持管理及び防災の重要性を改めて認識した。今後は本巡検で得た知見と経験を胸に、技術者として構造物の設計に取り組んでいきたい。

・佐藤

地震被害の保存施設や被災現場を訪れ、さらに滞在中に地震を経験したことで、台湾では地震が身近な存在であることを肌で実感した。一方で、日本が関与したダム施設や新幹線を見学したり、留学や学会などを通じて台湾と日本の技術者同士の活発な人材交流が行われていたり、地震が身近な二国だからこそ親密な協力があることを知った。これらの経験を通じ、今後は自らも台湾と日本のさらなる友好関係の発展に貢献していきたいと考えている。

貴重な機会をご支援いただいた皆様、台湾でお世話になった皆様に感謝申し上げます